

大項目	自 己 評 価				評価	学校関係者評価	
	中項目	小項目 (評価指標・具体的な取組)	達成状況・改善方策	評価		評価	
Ⅰ 夢・希望・志をもって 社会を生き抜く人づくり	キャリア教育	キャリア教育の年間指導計画に基づいた取組を進め、かかわり合う力、自ら学ぼうとする力の育成を図る。	国語や総合的な学習等を中心に多くの学習の中にキャリア教育の視点も踏まえた体験的な活動を行っている。このような学習が児童自身の自己肯定感や将来の夢にもつながってほしい。また、地域に根ざした教材を開発して地元愛にもつなげたい。	A	A	よい取組がたくさんできていると思うので、今後も様々な分野の方の協力を得るようにするとよい。 防災教育は、子どもたちはよく学べているが保護者の意識はまだまだ弱いので、地域の防災フェスタに小学生が親に呼びかけて参加するなど、親子参加型で学ぶ機会をつくっていくとよい。防災会も学校と連絡を取りながら防災訓練や防災フェスタ等を実施したい。	
	防災教育	緊急事態発生時の予防的な取組を推進する。防災教育カリキュラムに則った学習を行うとともに、想定を変えながら避難訓練を実施する。	想定を変えた避難訓練を年間4回実施。児童の意識は年々向上している。教職員アンケートでも「学校は地震等発生時の予防的な取組を推進しているか」の肯定的回答が97%だった。防災学習も全学年に位置付けており、代表して4年生が地域の防災フェスタで学習発表もした。今後も地域の防災団体等と連携しながら取組を進めていきたい。	A	A	特別なニーズや不登校対応については、弱い立場の子どもへの丁寧な支援や保護者の気持ちの傾聴など保護者と共有しながら取り組んでほしい。	
	特別なニーズ	関係機関やSC等と連携しながら校内支援会を定期的に開催し、学級担任だけでなく学校体制の中で支援を行う。	手厚い支援を要する児童や合理的配慮の必要な児童が増加する中、対応については、カウンセラーやSSW、関係機関等とも連携しながら、校内支援会やケース会を行うなど学校全体での支援体制で取り組んでいる。	B	B		
	不登校対応	毎朝の登校確認と、来ていない児童への働きかけを継続する。また、校内支援会を定期的に開催し、児童や保護者に寄り添った支援を行う。	不登校やその傾向にある児童については、保護者にも寄り添いながらカウンセラーやSSW、関係機関等とも連携した取組を継続。児童アンケート「学校が楽しいですか」の肯定的回答は92.4%。今後も予防的観点に立った取組を継続する必要がある。	B	B		
Ⅱ 思いやりのある豊かな心 と健やかな体の育成	人権教育 平和教育	教育活動全体を通じて人権意識、態度、実践的な行動力を育成し、いじめのない温かい学校を目指す。	Q-U等のアンケートを活用して学級内の児童の人間関係の把握に努めるとともに、いじめアンケートを毎学期実施し、望ましい関係づくりに取り組んでいる。児童アンケートでは「友だちと仲良くしているか」の肯定率は97.6%だが、言葉遣いにはまだ課題があるので、今後も重点的に指導していく。	B	B	人権教育は、家庭の協力も必要なので、参観日や親子行事など親子で学ぶ機会をつくる とよい。 体力づくりや食育の取組は、全校で学習できている。特に食育についてはとても取組がされているので、家庭への発信ももっとしたらよい。	
	道徳教育	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳の授業を中心に教育活動全体を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	全教育活動の中で道徳性を養うよう創意工夫している。2月には道徳参観日も実施。今後も道徳教育の年間計画等の見直しを行う等取組を強化していきたい。	B	B	生徒指導面は、学校での指導はよくできているようなので、上級生がお手本になり、ぜひ全ての子どもたちがルールやマナーを守れるようになってほしい。	
	体力の向上 食育の推進	運動のできる環境整備及び、活動量を高める運動方法を取り入れた授業の改善に努める。 食育の充実を図る。	体力向上の取組は徐々に上がってきているがまだ課題はある。児童アンケート「休み時間に外遊びをしているか」の肯定率が79.9%と昨年より9P上がった。今後も、体育部を中心に地域や関係機関とも連携して児童の運動量を増加させ児童が楽しく運動に親しめる環境を整えていきたい。食育については成果も出ているので、給食の地産地消を中心に教科等指導と連携した取組をさらに充実させたい。	A	A		
	生徒指導	「思いやりのあるたくましい子」の育成を目指し、関係機関等とも連携しながら学校内外での生活ルールの徹底指導を継続し、落ち着いた生活習慣を確立する。	学校のルールは概ね守られており、学校内は大変落ち着いた状態である。特に、全校で集まるような場面では、大変静かに行動ができる。話の聴き方もよい。校内での挨拶やトイレのスリッパの脱ぎ方、廊下の歩き方、そして掃除の仕方についても学校ぐるみで継続して指導を行っている。しかし、家庭環境等の影響もあり生活習慣が確立できていない児童が増えてきていることが課題である。関係機関等とも連携しながら対応する必要がある。	A	A		

Ⅲ 自ら学び、学びの楽しさを共有できる力の育成	学力向上	個々の児童に思考の場があり、相互のかかわりや、主体的な活動が展開できる授業づくりについて研究を進める。また、個々の学習量の向上を目指した取組を行い、学力調査等における「1 評定」の児童の減少を目指す。	児童アンケートでは 94.1%が「授業がわかる」と回答。学力調査結果は一部を除いて全国平均か全国を上回っている。特に国語の力は定着してきた。これは、学校ぐるみで言語能力の育成を図り、授業の中で児童が思考する場面を設定するなど取組の成果だと考える。また、放課後学習室等を利用して算数を中心に加力指導を行うことで、基礎学力や家庭学習定着につながっている。今後、国語だけでなく他の教科でも授業改善を行う必要がある。	B	B	子どもたちは、支援の手があれば学習に対してもみんな努力してもらえると思う。一人一人が学ぶことが好きになるようにきめ細かい支援が必要だと思う。 学校の組織力については、先生方の努力や苦勞、学んでいる熱心な様子はとても評価できると思う。さらに、子どもや保護者対応に結び付くような学び合い（研修）に取り組んでほしい。
	学校の組織力 教職員の 資質・能力	効率的・協働的な研修体制を確立する。外部講師を招聘するとともに、職場内で学び合える体制を整える。教職員アンケートの項目「研修体制の確立」において 90%以上の肯定評価を目指す。	「教育課程拠点校」指定3年目の研究発表会を11月に開催。参加者や講師の先生から高評価をいただくことができた。これまで教職員が一丸となって取り組んできた成果と言える。教職員アンケートの「校内研修体制や自己研修への積極性」における肯定評価は97%だった。今後も子どもたちのために互いに高まり合う教師集団を目指したい。	S	S	
Ⅳ 学校・家庭・地域との協働による教育力の向上	地域連携	PTA 会合や開かれた学校づくり推進委員会等で児童の状況を報告し、学校・保護者・地域の連携を強化する。学校支援地域本部も有効に活用する。	PTA 行事等では、保護者や地域の協力・支援をいただいて様々な充実した取組を行うことができた。また、地域行事には教職員も積極的に参加している。今後も代議員会や開かれた学校づくり推進委員会、学校通信等を利用して学校の取組や課題も説明し、協力をいただけるよう努力をしていきたい。	A	A	様々な取組ができていてよいと思う。今後も、地域やPTAと連携して、子どもたちがたくさん笑顔になる活動ができればよいと思う。 会合等へのPTAの参加が減ってきているようなので、もっと参加しやすい日程等考えていってはどうか。
	学校活性化	学校外の人材や出前授業等を活用して、体験的な教育活動を積極的に取り入れる。	保護者や地域、関係機関等の協力を得て、稲作や鯉タタキ、和楽器、高知交響楽団とのコラボ等多彩な体験的活動を実施。一昨年度から取り組み始めた伝統野菜「潮江菜」の学習もさらに充実してきた。このような経験が児童の主体的な学びや、地域の活性化にもつながってほしいと願う。	A	A	
	校種間連携	潮江地区4校が学力向上・防災教育・人権教育をテーマとした合同の研修会を開催する。また、校区の保育園との情報交換を密に行う。	潮江地区4校が学力向上・防災教育・人権教育をテーマとした合同の研修会を開催した。また、校区の保育園との連携も深めることができた。今後も交流等積極的に行い、連携を深めていきたい。	A	A	

経営のまとめ（成果と課題）
<p>本校は、国語教育の研究・実践を中心に、言語能力育成を柱に児童の主体性の形成をめざして全教育課程を通し全校体制で取り組んでいる。中でも長年継続して取り組んでいる帯タイムの音読・短作文・視写指導等の取組は言語能力育成につながっている。また、地域等の協力も得ながら、平日の放課後や夏季休業中に「放課後学習室（のびのび教室）」を開設し、学力面で支援の必要な児童に対し個別の学習支援を行うと共に、毎週火曜日の朝は「算数タイム」を設定して計算等の習熟をめざした取組も実施している。これらの結果、標準学力調査・全国学力調査や県版学力調査は、ほぼ全国や県平均を上回り、特に国語科においては成果が出ている。また、一昨年度から3年間、県教育委員会の教育課程拠点校の研究指定（継続）を受け11月に研究発表会を開催することができた。このことで、国語科における更なる授業改善・指導力向上を目指した研究実践を積み上げることができている。また、今年度から主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり研究指定を受け、国語科で培った力を算数科においても活かす研究も開始した。今後は、これらの研究の継続・発展が重要になっている。このような、研究部を中核とした授業づくりを柱に据え、特別活動部、人権・生徒指導部の取組をつなげることにより、学力面・生徒指導面ともに充実してきていると思う。しかし、児童を取り巻く環境には厳しいものもあり、一瞬も気を抜くことはできない。さらに、一人一人の児童のニーズに応じた教育の提供については課題もある。今後も、全ての子どもたちが、「学校に行きたい」「勉強は楽しい」と感じられるよう、教職員の更なる研鑽と努力が重要である。</p> <p>また、今年度も学校の教育活動やPTA行事等に対し、保護者や地域の方々の多大な支援・協力をいただき、特色ある取組や多彩な行事等を展開することができた。今後も学校・家庭・地域のこうした関係を一層密にし、地域ぐるみで子どもたちの健やかな成長を育てていくために、学校からさらなる情報発信や率直な意見交換等を行っていききたい。また、学校支援地域本部など新たな組織や体制についても充実させていきたい。</p>

学校関係者評価委員のまとめ
<p>全体的に学校は努力をし教職員は熱意を持って授業や行事等に取り組んでおり子どもたちも健やかに成長していると思う。今後もさらに一人一人の児童に寄り添えるよう研鑽を深め、どの学級でも充実した学級経営を行ってほしい。一方で、生活面・学習面ともに支援を要する児童が増加してきているが、そのようなしんどい子どもたちにぜひ寄り添ってほしい。また、学校だけでは対処しきれないケースの増加や、学校外での過ごし方、保護者の姿勢や態度にも危惧されるところがある。より一層、個々の児童や家庭の状況に応じた支援、PTAや関係機関等との連携、保護者への情報発信や啓発が望まれる。</p>

※ 中項目については、高知市教育振興基本計画に含まれる内容の一例であり、各学校で独自の項目を設定することは可能である。更に各学校の取組に応じて他の大項目に分類変更してもよい。また、大項目Ⅱにおける中項目「特別なニーズ」の一例は、高知市教育振興基本計画にある「特別支援教育」「就学・教育相談」「帰国子女・外国人の児童生徒支援」などである。

※ 評価は、S…大変優れている、A…優れている、B…概ね満足、C…要改善の4段階で記入する。